

椿が丘保育園の食育の取り組み

椿が丘保育園は、長崎市南部にある定員 60 名の保育園です。

「共育 遊育 感動いっぱい 笑顔いっぱい」という保育理念のもと、豊かな経験や遊びの中から、子どもたちの成長を育んでいきたいと考えております。

「食べたいな」「さわりたいな」「知りたいな」子どもたちが、そんな積極的な意欲を持って体験することができるように、子どもたちの成長・発達にあわせた食育活動を大切にしています。

「子ども畑は宝箱です」

保育園には、小さな畑があります。そこでは、子ども達が季節を通して、いろんな野菜を育てています。畑の土の匂い、くわの重さ、生きた本物の野菜、それを食べる虫たち。そういった、普通の自然の中で出会う体験や活動は、どんな教材にも勝る宝箱です。



「苦いけど、おいしか〜」

子ども達の中には、もちろん、野菜が苦手な子だっています。でも、自分たちで育てた採りたての野菜は特別なんです。それは、自分で一生懸命お世話をしたから。自分で種を植えて、水まきをして、大事に育てた野菜だから。そんな愛情たっぷりの野菜だから、大人でも苦手なゴーヤを、「先生おいしかね〜」なんて言って、食べているんですよ。

「子ども畑はフル回転」

夏にはトマト・キュウリ・なす・ゴーヤなどの夏野菜をつくっています。採れたての夏野菜がその日の給食で出てきたり、お泊り会では、採れた野菜をみんなで切って、カレーにして頂いています。秋には収穫したサツマイモで焼き芋会。冬には、大根や玉ねぎを収穫して、たくあんをつくったり。一年を通して保育園の畑はフル回転中なのです。



「自分たちでつくる合鴨米」

保育園の子ども畑では体験できないこともあります。田植えや稲刈り、脱穀などの体験は、長崎市西海町の長崎合鴨農園の協力を得て、行っております。この活動を通して、一粒のお米ができるまでの大変さや、命を頂くというありがたさを実感し、「食」への興味関心を深めています。この米づくり体験は、希望される保護者の方にも参加して頂き、親子で一緒に体験してもらっています。

「楽しく食べること」「命を頂くこと」言葉ではなく、たくさんの体験の中で育みたいものです。そんな心と体で感じる食育活動を、これからも大切にしていきます。